

守口文化財

# ガイドマップ



## 守口市教育委員会

### 5 式内 津嶋部神社

Shikinae Tsushima-Be Shrine  
시키나이 쓰시마베 신사

この神社は、高瀬神社と共に「延喜式神名帳」に記された由緒深い神社です。元和元年(1615)5月大坂夏の陣の兵火で社殿が炎上したと伝えられ、その後幾多の再興が行われてきましたが、元禄年間(1688~1704)に再建された社殿は、現在の社殿と同規模で相当大きく当時の隆盛がうかがえます。また当社には、慶長13年(1608)の銘をもつ、笏石製の石造狛犬が伝っており、現時点では府下で最古の紀年銘を持つ狛犬で、平成12年(2000)に有形文化財に指定されました。

### 6 妙楽寺

Myorakuji (Temple) 모라쿠지 절

延宝年間(1673~1681)の洪水で本堂や庫裏を流失しましたが、天和年間(1681~1684)浄土宗融通派の僧一空知三嶋阿上人が檀家と協力して寺を再建しました。しかし、もとは天台宗であったので妙楽の号を称したと伝えられています。境内には、樹齢約300年、樹高約3.5m、幹回りは根元から30cm上で20~40cm前後、根付け支幹は16本、枝張東西約4.8m南北約7mの「オオムラサキ」、俗称は「ヒラドツツジ」があり、昭和58年(1983)に大阪府の天然記念物に指定されています。

### 8 弥治右衛門記念碑

Yajimon Monument 야지에문 기념비

大久保地区一帯は低地で、特に藤田村は水はけが悪く、稲の水腐れの被害が毎年のおこっていました。慶安元年(1648)藤田村の庄屋小泉弥治右衛門は、村民の被害を取り除こうと、幕府の許可なしに排水樋をつくったと伝えられています。このため幕府を無視したとして、翌年3月22日に弥治右衛門一家は処刑され、家財・田畑も没収処分になりました。村民たちは、村のために犠牲になったこの弥治右衛門を、後世に伝えるべく俗名を刻んだ道標をつくり墓碑がわりとし、また、昭和7年(1932)には、この記念碑も建立されました。

### 7 もりぐち歴史館「旧中西家住宅」

Moriguchi Historical House (The Old Nakanishi Residence) 모리구치 역사관 '구 나카니시 집안 주택'

中西家は江戸時代初期に尾張徳川家と姻戚関係を持ったことから、後に代々大坂天満蔵屋敷奉行などの要職に就いてきた名家です。現在の建物は寛政5年(1793)に建立されており、府下に残る建物としては比較的新しいものですが、棟札及び銘文に記された旧建物規模からみて、弘治元年(1555)の草創以降大差のない規模・構成を踏襲してきたことがうかがえます。また大門も棟札及び銘文より、安永5年(1776)に再建されたことがうかがえます。屋敷敷が濠で囲まれていたこととあわせて、中世土豪をしのばせる極めて貴重な建造物です。平成10年(1998)に有形文化財に指定し、修復・保存工事を行い、現在はもりぐち歴史館「旧中西家住宅」として公開しています。

### 9 大念寺

Dainenji (Temple) 다이넨지 절

延宝2年(1674)の創建と伝えられており、もとは大念仏宗来迎寺の末寺で、明治5年(1872)に、浄土宗となりました。当寺にある石造地藏菩薩立像は、享禄5年(1532)の和泉砂岩製で本市の貴重な石造美術品となっています。

### 10 白山神社

Shirayama-Jinja (Shrine) 시라야마 신사

旧の六番村・三番村・四番村の氏神で、もとは現在地より北西に約300m離れた御旅所の位置にあったといわれ、今その地には「藤之森」の石碑が建てられています。現在の本殿は、覆屋の中に一間社流れ造の白山大権現・春日大明神の二殿が左右に並置されています。建立時期は明らかではありませんが、江戸時代中期の元禄から享保の間と見られています。

### 1 佐太天神宮

Satatenjingu (Shrine) 사타덴진구 신사

菅原道真が太宰府へ流される途中しばらく舟を繋いだ処で、菅公死後の天曆年間(947~957)に菅公を慕って祠が建てたのが当社の創建であると伝えられ、室町期には大庭庄の惣社として崇敬されるようになりました。現在の社殿は、領主の永井尚政・尚庸父子や豪商淀屋辰五郎等の手厚い保護や支援のもとに整備され、寛永17年(1640)建立の本殿、慶安元年(1648)の石門・拜殿・拜殿等江戸時代初期の重要な建物がそろって残されているのは極めて貴重であり、平成15年(2003)に本殿・拜殿・拜殿は大阪府の有形文化財に指定されています。特に本殿は、一間社春日造、軒唐破風付で唐破風下を豊富な彫刻で埋め尽くすなど正面性を極めて重視している点が際立った特色となっています。当社には、室町時代文安3年(1446)の箱書きのある平成10年(1998)に有形文化財に指定した紙本着色天神縁起絵巻6巻のほか、永井尚政より寄進を受けた狩野探幽の絹本着色十一面観音画像をはじめ、後水尾上皇を中心に当時の宮廷をとりまく皇族・公卿・画家・学者・高僧等の江戸時代初期の美術作品が数多く奉納されています。また、大和守安定の作刀である刀とその拵の金梨子地塗糸巻太刀拵は、寛文10年(1670)の銘があり、安定の作品中でも大作に属する貴重なものとして、大阪府指定有形文化財となっています。

### 2 管相寺

Kanshoji (Temple) 간쇼지 절

平安時代中期の創建と考えられ、かつては境内も広大であつたらしく七坊あつた境内の東坊の後身といひ、昔から佐太天神宮の宮寺で奥の院といわれていました。当初は真言宗の寺でしたが、正保元年(1644)に永井尚政が萬安禪師を招いて曹洞宗に改宗し、現在は宇治興聖寺の末寺となっています。本堂は、慶安4年(1651)永井家によって再建されたもので、江戸時代には観音堂とよばれ小規模ながら、市内の仏堂建築としては最古のものとして貴重なものです。また、境内に残る石製露盤(花崗岩製)も、室町時代の遺品として極めて貴重なものです。

### 11 正覚寺

Shokakuji (Temple) 쇼카쿠지 절

もとは大念仏宗来迎寺の末寺でしたが、明治5年(1872)に浄土宗となりました。古くは大伽藍があつたと伝えられ、延宝年間(1673~1681)に浄土宗の僧が住み、享和元年(1716)に最誓円察が再建中興したとされています。境内には、室町時代の石造地藏菩薩が多数保存されており、中でも特に珍しいのが石造板碑十三仏で、慶長15年(1610)の銘があります。

### 14 八雲神社・祭礼山車

Yagumo-Jinja & Saireidanjiri (Shrine & Ritual Float) 야구모 신사-제례용 장식수레

旧の八番村・北十番村・下島村・南十番村の下番四ヶ村の氏神です。本殿は、三間社流れ造で、向拝の中央柱間には虹梁を通さないという、北河内では珍しい形式を持ったものです。しかし、江戸時代中期には一間社流れ造の二殿形式であつたものを、天保年間(1830~1844)に現在の三間社形式に再建したものと推定されています。また八雲神社の秋祭りは、旧の八番・北十番・南十番・下島の村から1台ずつと新たに八雲中町から1台計5台の山車が村中を練り込みながら争って宮入する様子は社絶であり、貴重な民俗文化財です。

### 3 来迎寺

Raikoji (Temple) 라이코지 절

現在では、浄土宗知恩院の末寺ですが、もとは大念仏宗佐太派の総本山でした。創建は大念仏宗中興法上人の弟子実尊威阿上人西願が、貞和3年(1347)に下仁和寺庄守口村に一手を建立したのが始まりといわれ、今も来迎寺の地名を残しています。しかし、住職が代わるたびに本尊を移し(332年間に26回)、延宝6年(1678)に現在の寺地を寄進され定堂して発展しました。現在では、本堂が鉄筋コンクリート造に建て替えられたのが惜しまれますが、享保3年(1718)に本堂の用材で再建された客殿及び玄関、明和2年(1765)再建の庫裏、安永4年(1775)の長屋門、江戸時代後期の表門(四脚門)・土塀などを残し、庫裏から客殿へかけての景観は見事で、往昔の寺観をうかがうことができます。また、当寺には多数の文化財が伝わっていますが、なかでも絹本着色八幡曼荼羅図は国の重要文化財に指定されています。絹地に彩色で男山八幡宮の七社の神像を巧みに描いた鎌倉時代の優品です。また、寺庭にある石造十三重塔は基礎部に嘉元2年(1304)「寺調衆四十余人」の銘文があり、鎌倉時代の石塔として大阪府指定有形文化財となっています。他にも、銭弘徹八万四千塔・鎌倉影香合・木造釈迦如来立像、特に全国で唯一と言われる後村上天皇画像など、貴重な文化財が多数残されています。

### 4 佐太陣屋跡

Satajinya-Ato (base camp remains) 사타진야 유적터

旧大庭一番村の領主永井尚庸は貞享4年(1687)に下野島山藩へ転封され、それまで陣屋を置いていた交野郡渚村(枚方市)は幕領となりました。そのため、京・大阪間の交通及び軍事上の要地に適し、佐太天神宮のあるこの地に陣屋を移しました。これが佐太陣屋で、永井氏の蔵屋敷の役目も兼ね、年貢米の納入や特産物を集積し、大坂での取引や藩の金融業務など、永井氏の台所の役割を担っていました。現在は、佐太老人福祉センターになっていますが、来迎寺との境界のところに残る石垣と竹藪がころうじて昔のなごりをとどめています。

### 13 光明寺

Komyoji (Temple) 코묘지 절

真言宗御室派仁和寺の末寺で、大同元年(806)空海(弘法大師)の開基と伝えられ、もとは八幡宮寺とも称し、八雲神社の宮寺でした。本尊の十一面観音立像は、守口市内に残る最古の仏像で、国の重要文化財に指定されています。右手を下げ、左手を上げて蓮華瓶を持つ、俗にいう長谷式の十一面観音立像で、材質は樟の木造、総高は112.7cmあります。両手先や持物・宝冠・台座などは江戸時代の後補ですが、像の主体部はよく当初の面影をとどめ、藤原時代(10世紀)の彫像として、守口市を代表する文化財です。また、裏の墓地には、市内でもっとも古い康永3年(1344)と刻まれた石塔婆があります。

### 15 専教寺

Senkyoji (Temple) 센쿄지 절

もとは泉教寺と称し、嶋名善祐坊の開基で、宝永元年(1704)に今の専教寺という寺号に改められました。この寺に伝わる蓮如上人画像は、墨色の御影と考えられ、絹地に両手で数珠を持った座像が描かれています。絹地は、やや粗目の室町時代後期によく使われた、いわゆる足利網を用い、のびやかな描線をもって温顔のなかにも厳しさを秘めた蓮如上人の像をいきいきと描いており、蓮如上人画像としては比較的早い時期の作品として、貴重な資料です。

### 16 一里塚跡

Ichirizuka-Ato (Remnants) 이정표 기념비

一里塚は、2代将軍徳川秀忠が五街道を整備した時、一里(約4km)ごとに街道の両側に土を盛って里程の目標にしたもので、多くは榎・松の木が植えられていましたが、当市のこの場所には、いまだ記念碑が建てられています。この付近は、守口宿の「上の見附」にあたり、大名が宿泊したり通過する時は、問屋や庄屋などの宿役人や村役人が、麻上などを着用してこの一里塚まで送迎しました。